



平成 25 年度 関東ブロッククラブネットワークアクション 2013

開催報告

日時： [1日目] 平成 25 年 12 月 7 日（土） 13：00～17：00
[2日目] 平成 25 年 12 月 8 日（日） 9：00～12：40

会場：栃木県総合教育センター（栃木県宇都宮市）

内容：

[1日目]

- オープニング
- 開会行事
- 講義 「プロから学ぶ自主・自立に向けた地域密着方」
講師：砂川 幹男 氏（宇都宮ブリッツエン運営会社、
サイクルスポーツマネージメント株式会社 代表取締役）
- グループディスカッション 「自主・自立に向けた地域密着方を考える」
- グループディスカッション発表

[2日目]

- 講話 「自主・自立に向けた課題 ～学校との連携～」
講師：坂本 宏夫 氏（栃木県レクリエーション協会 理事長）
- グループディスカッション 「自主・自立に向けた課題克服について」
- グループディスカッション発表
- 閉会行事

【概要】

本事業は、今年度よりスポーツ振興くじ助成金（toto）による実施になり、昨年まで1日目と2日目と対象となるクラブを分けて実施してきましたが2日間を通しての実施になりました。また、事業実施協力金を参加者からいただくことにもなりましたので、より充実した内容になるよう心がけて計画しました。

SC全国ネットワークに於いて、「自主・自立に向けて」を提唱していたので、関東ブロックでも、自主・自立に向けてをメインに、toto 助成金終了後の運営を鑑みて、1日目、地域に密着したクラブ運営をするにはという観点からプロから学ぼうとプロチームから講師を招き講話を聴き、講義を基にグループディスカッションの場をもうけ、意見交換や情報交換を行

いました。

2日目も同様、自主・自立に向けた課題克服と題して、学校との連携という観点から教員OBを講師に招き講話を聴きグループディスカッションを行いました。

【1日目】

【オープニング】

おもてなしの意味から栃木県内の2クラブによる発表を行いました。



＜NPO法人ためまアスレチック 和太鼓＞



＜友遊いずみクラブ コーラス＞

【討議内容】

【講義について】 「プロから学ぶ自主・自立に向けた地域密着方」

～プロから学ぶ自主・自立に向けた総合型地域スポーツクラブの運営～

砂川氏は元宇都宮市職員。栃木県内にある『サッカー（1チーム）』『バスケットボール（1チーム）』『アイスホッケー（1チーム）』『自転車（2チーム）』5つのプロチーム、その中の自転車チーム「宇都宮ブリッツェン」を運営しています。自転車は他のスポーツと違いメジャーなスポーツではありませんが、栃木県は自動車普及率が上位の県。それゆえ、宇都宮市を中心に自転車を普及させようという思いもありました。

メジャーではないので、スポンサー探しも簡単にはいかなかったようですが、市役所の自治振興部に所属していたこともあり、地元の知り合いを頼りに地道に活動、特に地域貢献活動、自転車のマナーアップ、スキルアップを目的とした自転車安全教室の開催や警察と連携した交通安全活動や自転車を使った介護予防、行政とも協働で事業を開催したり、積極的に地域に出かけ活動して来ました。地域への密着度は一番高いチームと言えます。



【グループディスカッションについて】

昨年の反省で、情報交換の時間が短かった、メンバーの入れ替わりがあったので自己紹介を

するだけで時間を使ってしまい本題を話し合う時間が短かったという反省をうけ、参加者の都県が重ならないように10～12名のグループを10班つくり、メンバーを固定、各都県クラブアドバイザー及び代表委員が司会進行、体育（スポーツ）協会等の職員が書記を担当、グループディスカッション後、それぞれの班の話し合いの結果を3分目安に発表することになっているので、発表者を決め、「自主・自立に向けて 地域密着方」というテーマを基に班毎に自由にディスカッションを実施しました。



【グループディスカッションの発表について】

グループ毎に決めた発表者に1班から順にステージ上の椅子に座ってもらい、班内で出た意見の報告をしてもらいました。

- *自治会のイベント・地域のイベントに積極的に参加し、知名度（認知度）を上げていく。
- *地元の広報誌（紙）にクラブを宣伝してもらう。
- *クラブから定期的に活動の様子を自治会・学校・行政に知らせる。
- *行政と協働事業を実施する。
- *拠点となる場所を確保する。
- *学校・PTA・子ども育成会・自治会から役員に入ってもらいクラブの活動を知ってもらう。



【2日目】

【講話について】 「自主・自立に向けた課題の克服」～学校との連携～

坂本氏は元教員、校長で定年退職されました。中学校の教諭でスタートし研修船の指導員として青年の国際活動に貢献したり、宇都宮市の職員に配属になり、市の職員の立場でスポーツに関する新しい事業を起こしたり、経験は豊富です。今回は元校長の立場から今の学校現場の現状を踏まえ、学校と総合型地域スポーツクラブとの連携について、ユーモアたっぷりにお話をいただきました。



【グループディスカッションについて】

1日目とメンバーを入れ替えただけで方法は1日目と全く同じで、「自主・自立に向けた課題克服」について、グループディスカッションを行い、班毎に発表を行ないました。



＜グループディスカッションの様子＞

【グループディスカッションの発表について】

- * 学校は市町の所有物なので市町の教育委員会といかに連携を図るかがポイントになる。役員の中に教職員OBがいると教育委員会や学校からの協力は得やすい。
- * 校長が何処まで権限を譲渡してくれるか。リスクマネジメントから体育館・校庭は開放するが校舎内の開放まで許可がおりないのが実状。
- * その他課題としては、既存の団体と競合しないように空いている曜日・時間で種目を設定しているので、種目の拡大が出来ない。

【まとめ】

2日間のグループディスカッションの発表をとおして見えてきた自主・自立に向けて共通の課題は‘toto 助成金が終了した後の運営’についてでした。toto からの助成金は5年間で終了するのは解かっているはずなので、創設準備段階の時から、5年後の運営を見据えた計画を立て、クラブの状況に合わせて助成金を申請すること、それには、クラブの方向性を決めることが大切である。助成金がもらえるからというだけで立ち上げ、運営していたのでは5年後行き詰まってしまう。

さらに、会費についても助成金があるから無料ではなく、会費の設定は必要であるという意見でした。ただ、受益者負担の意識が低いので、会費の設定や会費の値上げに苦慮しているクラブが多いようです。

助成金が終了してからの運営こそが自主・自立したクラブになるのではないかとということでした。

今年度から、2日間通してのテーマ「自主・自立に向けて」をメインに、参加者も原則2日間通してでした。そして、グループディスカッションに許す限りの時間を費やしましたので、参加者は、自分の思いはある程度伝えられたのではないかと考えています。



＜グループディスカッションの報告＞

関東ブロッククラブネットワークアクション2013

実行委員 宮本 栄子